

江戸切子 –日本のカットグラス–

実施日：平成28年9月7日～9月17日 於：フィンランド、フランス（ストラスブール）、英国（ロンドン）

■ 派遣専門家



堀口 徹

(株) 堀口切子 代表取締役
三代秀石

日本の伝統工芸士（江戸切子）
伝統工芸のフィールドで培った技術をもとに「工芸」「アート」の枠にとらわれることなく制作に取り組む。江戸切子の持つ可能性の幅を広げるべく、時流を意識した創作活動で、海外での出品も展開されています。

■ 事業概要

● フィンランド



ガラス作品愛好者に向けた講演会



ヘルシンキ・デザイン・ウィーク内の、
フィンランド人デザイナーとの対談イベント

● フランス（ストラスブール）



Saint-Louisでの講演、工場見学



Baccarat社での意見交換

● 英国（ロンドン）



アート・ワーカーズ・ギルドでの講演会



江戸切子の輝きが体感できる
インスタレーション

■ 実施結果

デザイン大国であるフィンランド、カットガラスの盛んなフランス（ストラスブール）、カットガラスを日本に伝えた国イギリス（ロンドン）で、江戸切子についての講演と意見交換を行いました。フィンランドでは、ガラス愛好者に向けての講演に加え、ヘルシンキデザインウィーク内で、フィンランド人デザイナーとの対談イベント「Design Diplomacy」を開催。ストラスブールでは、カットガラスの代表的なブランドである、Saint-Louis社で講演を行った他、Lalique社、Baccarat社を訪問。ロンドンでは、江戸切子の源流となることになった、1900年代初頭に日本で硝子製造を指導したイギリス人技術者の曾孫である硝子歴史研究家 サリー・ヘイデン氏との対談を行いました。職人同士の交流だけでなく、講演やメディア取材を通じ、広く江戸切子と日本の文化の魅力について伝えることができる事業となりました。